

## 「位ものさし」で大きな数をかいてみよう

単 元	1億をこえる数	対象学年	4 年
ね ら い	大きな数を読んだり書いたりする場合、「4桁ごとに区切る」ことがポイントである。「4けた」を意識し、桁や位の間違いを減らすことができるようにする。		

### 1 準備するもの

教師：4色（オレンジ、水、黄、桃）の色画用紙（できれば方眼入りのものがよい）

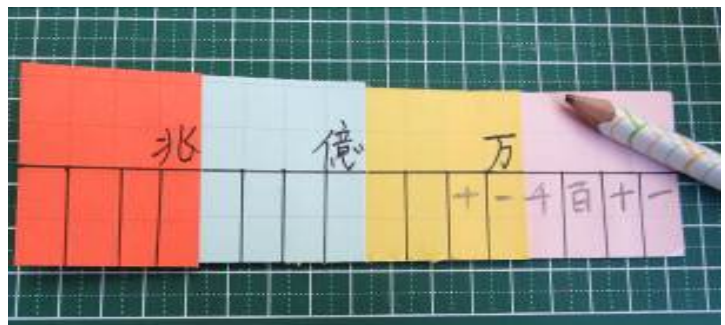
児童：筆記用具、のり

### 2 学習のしかた

(1) 「位ものさし」を作る

「位ものさし」の作り方

- ①方眼入り色画用紙をそれぞれ4×4マス（のりしろを数センチとる）の大きさにカットする。
- ②右から桃、黄、水色、オレンジの順になるように並べる。その時、それぞれの色が4×4マスになるよう重ねる。
- ③のりづけをする。4×4マスになるようカットする。
- ④位ごとに「兆」「億」「万」を書き込み、区切りの線を入れる。



(位ものさし)

(2) 使用場面例1 大きな数をよむ

下の表を見て、平成25年度の沖縄県の予算と日本の予算をよんでみましょう。

沖縄県と日本の予算（平成25年度）

沖縄県	6988	2500	0000円
日本	92	6115	3932 8000円

この時間までに数の読み方（十億の位まで）を学習している。この問題では、それ以上の数、億の次の数である兆について学習を進めていく場面である。桁もかなり多くなっていくこともあり、なかなか位取りをすることも難しくなってくる。そこで、「4桁ずつ区切る」ことを意識し、正しく数を読みやすくするための補助教具として「位ものさし」を使う。手順として、

- ①沖縄県の予算額をノートに書かせる。その時、1マス1文字ずつ入れていくことを伝える。

- ②右端に一の位を合わせて「位ものさし」を当てる。「0」はよまないこと、色の区切りまでよんだらものさしの上部に書かれている「億」や「万」のところをよむようにする。

兆			億				万							
百	十	一	千	百	十	一	十	百	十	一	十	百	十	一
			6	9	8	8	2	5	0	0	0	0	0	0

(3) 使用場面例2 大きな数を数字でかく

数字でかきましょう。

- ① 一億四千七百九十六万三千      ② 八兆二千七百億五千九百三十万

示された数を数字で書く問題である。かいてある数をよむことはできても、逆操作ができないことも多い。間違えるパターンとして数の構成の中に「0」が入ってくるものがある。例えば「三万五百四十八」を数字でかくと正しくは「30548」なのだが、「3548」となったり、「30000548」となったりする。こうしたミスを少しでも少なくするために「位ものさし」を活用できるようにしたい。

- ①ノートの端に一の位が来るように「位ものさし」を当てる。  
 ②問題文も4桁に区切る。そのときできれば「位ものさし」にあわせてかけるとよい。  
 ③数字をかきこんでいく。該当するところに数字がない場合には空欄とする。(写真)

兆			億				万							
百	十	一	千	百	十	一	十	百	十	一	十	百	十	一
			8	2	7		5	9	3					
			八兆二千七百億				五千九百三十万							

- ④空欄のところに「0」をかく。

3 学習上の留意点

- ・数字で書く際、空欄にしていたところは慣れてきたら「0」を入れながら書けるように指導する。
- ・算数の友など、方眼になっておらず、狭いスペースに書かなければならない場合、ノートに問題を写して取り組ませるとよい。

4 学習の効果

- ・数の構成があいまいな子どもについては「4桁ずつ」を意識してよんだりかいたりできるようになる。
- ・慣れてくると読み書きのスピードと正確性も向上する。